

平成30年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立田原西小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成30年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

平成30年4月17日(火)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語A・B, 算数A・B, 理科, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語A・B, 数学A・B, 理科, 生徒質問紙)

4 本校の参加状況

① 国語A	50人	国語B	50人
② 算数A	50人	算数B	50人
③ 理科	50人		

5 留意事項

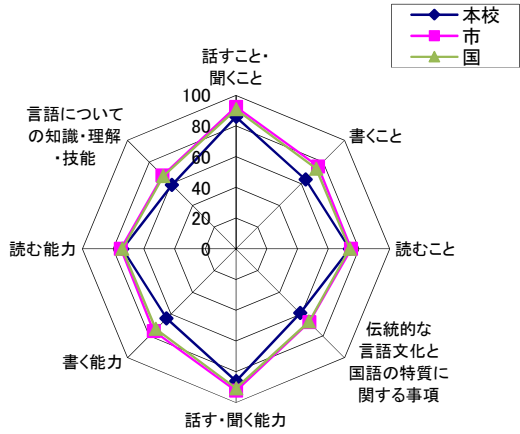
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数、理科の3教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立田原西小学校第6学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

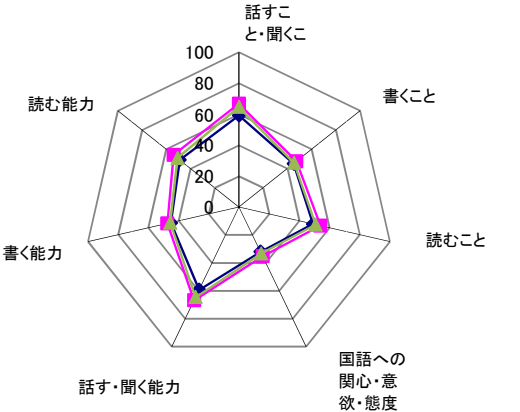
【国語A】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと・聞くこと	86.0	92.4	90.8
	書くこと	64.0	75.7	73.8
	読むこと	74.0	74.9	74.0
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	59.0	67.5	67.0
観点	国語への関心・意欲・態度			
	話す・聞く能力	86.0	92.4	90.8
	書く能力	64.0	75.7	73.8
	読む能力	74.0	74.9	74.0
	言語についての知識・理解・技能	59.0	67.5	67.0



【国語B】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと・聞くこと	59.3	66.8	64.6
	書くこと	45.2	47.4	45.6
	読むこと	49.0	54.0	50.8
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項			
観点	国語への関心・意欲・態度	32.0	35.2	33.2
	話す・聞く能力	59.3	66.8	64.6
	書く能力	45.2	47.4	45.6
	読む能力	49.0	54.0	50.8
	言語についての知識・理解・技能			



★指導の工夫と改善

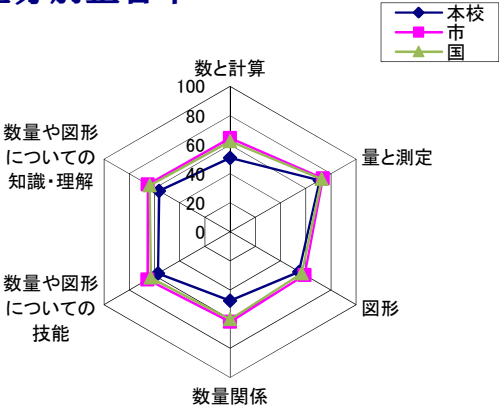
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	平均正答率は、A・Bとも全国を下回っている。 ・話合いの場面で、司会者の意見を整理しながら進行するという役割を捉えることに困難な傾向があった。 ・話合いの参加者という立場に立ち、自分の考えをもつことができる児童の割合は、全国とほぼ同じである。また、他の意見との共通点・相違点を示しながら考える割合は全国を上回っている。	・授業そのものを、児童相互、児童と教師が対話しながら考えを深めるものに転換する。 ・話合いの中で司会者が行う、意見を受け、整理し、考えを引き出すなどの役割を、再確認する。 ・学級活動と関連を図り、話合いの機会を多く取り入れる。だれもが、提案者・司会者・発言者・パネラー・オーディエンスなど様々な役割を担い、活動を振り返ることで話合いの良し悪しに気付くよう導き、さらに習熟を図る。
書くこと	平均正答率は、Aは全国を下回っているが、Bは全国とほぼ同じである。 ・目的や意図に応じ、内容の中心を明確にして、詳しく書くことには苦手意識がある。 ・問いや選択肢を読み違え、正しい記述を選択できなかったり意図と外れた記述をしてしまったりするが、自分の気持ちや意見を書ける児童は多い。 ・記述式の問題の無答率が高めであるが、解答した児童のほぼ全員が出題条件を満たして書こうとしていた。	・自分の考えや要点、要約をまとめたり書いたり、情報を整理したり比較したりして書く場を、授業に意図的に位置付け、習慣付けることで苦手意識の軽減を図る。 ・字数や使用語句などを条件付けて書く機会を増やすとともに、自分で見直す習慣を身に付けさせ推敲できるようにする。 ・児童の書いたものに対し、個別に具体的な指導をし、よりよい記述にしようとする児童の意識を高める。 ・書いたものを交流し、友達の書いた文章の良さや工夫に気付かせ、その後の作文に役立つようにする。
読むこと	平均正答率は、A・Bとも全国とほぼ同じである。 ・物語の展開や情景描写などから、登場人物の心情を読み取れる傾向にあった。 ・多くの資料を関連付けて読み解くことができていない。全体的に把握しておきたい必要な内容が抜けてしまったり、直近の資料や記述を中心に読んでしまったような解答が見られた。	・本文や読み取りの基になる資料に戻る、重要語句に線を引いたり印をつけたりしながら読むなど、読みの基礎になる方法を授業に定着させる。 ・1度目は大まかな内容把握、2度目は詳しく読み取るなど、何度も読み深める授業を展開する。 ・複数の記述や資料から分かることを読み取るような内容や、活用(B)問題などを年間指導計画に位置付け、深く学ぶ機会を設ける。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	平均正答率は、全国を下回っている。 ・漢字の表記問題の無答率が非常に高く、文脈に合う漢字を書くことが苦手な児童が多いといえる。 ・主語と述語の関係に注意して読むなど文の構成理解が不十分であり、ねじれて書かれた文に気付くことができていない。 ・尊敬語の使い方の正答率が非常に高い。	・生活の中で、進んで既習漢字を使うよう指導するとともに、熟語や短文の形で漢字を練習させるなど方法を工夫させる。また、同音異義語を取り上げ、整理し、身に付けさせる。 ・日常の会話や短作文などで、主語・述語を意識するよう指導する。また、主語が人物でない場合や省略されているケースも丁寧に扱う。 ・日常生活で敬語を積極的に使わせ、実践する中でさらに定着を図っていく。

宇都宮市立田原西小学校第6学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

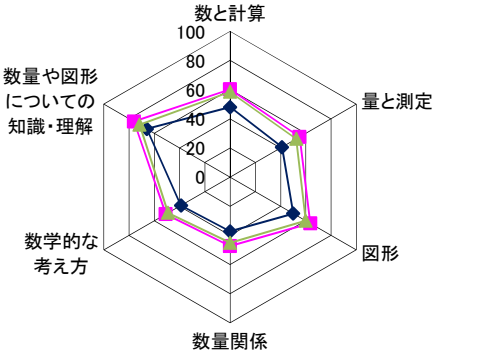
【算数A】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と計算	50.8	64.5	62.3
	量と測定	71.0	73.6	72.7
	図形	54.7	59.1	56.9
	数量関係	47.2	61.8	60.1
観点	算数への関心・意欲・態度			
	数学的な考え方			
	数量や図形についての技能	57.2	65.5	63.0
	数量や図形についての知識・理解	56.4	65.3	63.8



【算数B】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と計算	48.0	60.2	58.4
	量と測定	41.0	55.0	52.4
	図形	50.0	63.5	59.9
	数量関係	37.2	47.3	45.1
観点	算数への関心・意欲・態度			
	数学的な考え方	38.9	51.0	49.2
	数量や図形についての技能			
	数量や図形についての知識・理解	66.0	76.2	71.7



★指導の工夫と改善

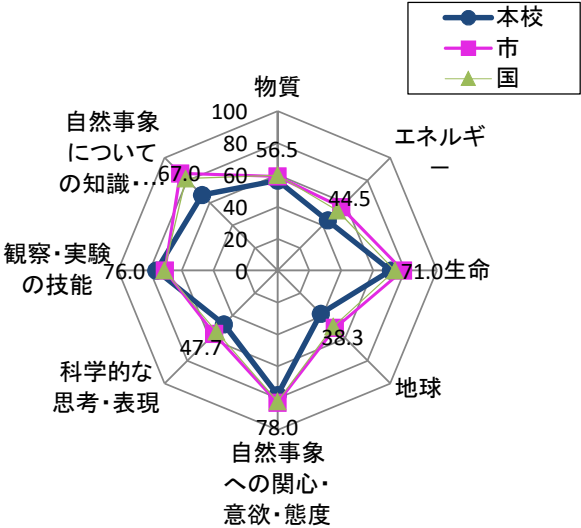
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は、A・Bとも全国を下回っている。 ・わり算では、計算の意味をとらえられず、正しく立式できない傾向がある。また、かけ算では被乗数と乗数、たし算では被加数と加数を見極められない児童がいる。 ・問題場面をとらえる段階で見当を付けたり、解いた後に見直しをしたりする習慣が身に付いていないため、明らかに誤った解答をしていることに気付いていない。	・既習事項を活用して新しい課題に取り組ませ、児童同士が考えを交流しながら解くような授業を展開する。始めは自力解決できなくても、友達の考えの良さを理解し自分のやり方に取り入れながら解決していこうとする意欲を高め、あきらめない気持ちを育て分かる喜びを味わわせる。 ・見当を付けたり見直したりすることが正答に結び付くことを再認識させ、定着させる。
量と測定	平均正答率は、A・Bとも全国を下回っている。 ・対話形式の出題があり、その中に解決のヒントがあったが読み取れない児童が多かった。 ・複数の情報を関連付けて考察したり、判断の根拠を明らかにして説明することに、抵抗感が強い傾向があった。 ・記述式問題は、無答傾向が非常に高い。	・日頃から、対話を介して課題解決できるような授業を展開する。その中で、友達の考えとの共通点や相違点を示したり自分なりの考えを述べたりすることが、基本的な学習習慣となるよう繰り返し指導していく。 ・複数の情報から分かることを読み取り関連付けて解くような内容や活用(B)問題などを、年間指導計画に位置付け、深く学ぶ機会を設ける。 ・自分の考えを書く場を意図的に設け、記述する機会を増やす。
図形	平均正答率は、A・Bとも全国を下回っている。 ・分度器を正しく操作することができるが、180度を超えると誤答が増える。0度の基準線を正しく見極めていない児童が多い。 ・敷き詰め模様の中から構成している図形を見出すことができたが、それらの角の大きさを正しく示したり360度を意識したりすることまで至らず誤答になってしまった児童が多かった。	・分度器の正しい使い方を復習させるとともに、180度を超えた角や向きの変った角の測り方を習熟させる。 ・図形の名称や性質、内角、合同など、図形の学習の基礎となることを復習させる。
数量関係	平均正答率は、A・Bとも全国を下回っている。 ・二つの数量関係を数直線に表すことができる傾向にあった。 ・基準量と比較量を正しくとらえることができない児童が多く、割合を求めるための式を立てることができない。また、立式しても、百分率で表すことができずに誤答になっているケースもあった。	・数直線を活用して数量の関係を考えたり説明したりする機会を増やし、さらに定着を図る。 ・比較量と基準量を正しくとらえさせ、百分率の意味を正しく理解できるようにする。また、「～をもとにする」という考え方を他領域でも取り上げる。 ・百分率の求め方を復習し、類似問題をたくさん解かせる。

宇都宮市立田原西小学校第6学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【理科】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	物質	56.5	59.0	59.8
	エネルギー	44.5	56.4	53.1
	生命	71.0	78.6	73.6
	地球	38.3	50.9	49.5
観点	自然事象への関心・意欲・態度	78.0	82.9	82.1
	科学的な思考・表現	47.7	56.1	54.1
	観察・実験の技能	76.0	70.6	71.1
	自然事象についての知識・理解	67.0	86.2	81.5



★指導の工夫と改善

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
物質	平均正答率は、全国を下回っている。 ・ろ過や蒸発の正しい実験方法や結果分析の仕方を身に付けている。 ・問題文を読み取れず、問いかけが意図するものと大きくかけ離れた解答が目立つ。 ・記述式問題に無答が多い。	・今後も、方法や分析の仕方を正しく理解させたいうえで実験に臨ませるようにする。 ・国語科の「読むこと」の学習で正しい読みの力を伸ばすとともに、実験や観察の意図をしっかりと理解させたいうえで取り組ませるようにする。 ・日頃の授業で、実験方法や考察、振り返りなどを、自分なりの言葉で書く場を意図的に設定する。
エネルギー	平均正答率は、全国を大きく下回っている。 ・電流の流れ方について、予想を確かめる方法を見通して実験を構想することに課題がある。 ・実験結果から電流の流れ方について、正しく考察することに課題がある。	・実験に検流計を使用する意味や回路のつながりについて、復習させる。 ・実験前には、児童主体で、予想をしたり見通しを立てたりする学習を必ず行うようにするとともに、実験方法で工夫できるところがないかを考えさせる活動を入れる。 ・実験結果から分かることを児童自身の言葉で記述する場を設け、それを他の児童と交流する時間を確保し、考察する力を育てていく。
生命	平均正答率は、全国を下回っている。 ・人の腕が曲がる仕組みについて、よく理解している。 ・人体の部位を示す言葉を正しく身に付けていない傾向にある。また、漢字表記をする割合が極めて低い。	・関節や筋肉については、模型を活用し具体的操作を取り入れて指導した。今後も、ICTの活用を含め視覚的体験的に学ぶ機会を多く取り入れるようにする。 ・基礎基本については、視覚的に訴えるような板書を工夫し、ノート作りの際にも、言葉を正しく使ったり積極的に漢字で書いたりするよう促し、習熟を図る。
地球	平均正答率は、全国を大きく下回っている。 ・流れる水の働きに関する基本的な言葉が正しく身に付いておらず、仕組みの理解も低い。 ・与えられた観察の結果を正しく考察することに課題がある。	・流れる水の働きについて、視聴覚教材を用いたり確認実験を示したりし、仕組みについての理解が深められるよう復習の機会を作る。 ・実験結果から分かることを児童自身の言葉で記述する場を設け、それを他の児童と交流する時間を確保し、考察する力を育てていく。

宇都宮市立田原西小学校 第6学年 児童質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「算数の勉強は好き」と回答した児童の割合はわずかに22%だが、「算数の勉強は大切だと思う」と回答した児童の割合は66%、「算数の授業で学習したことは将来社会に出たときに役に立つと思う」と回答した児童の割合は76%と、将来のことを考えている児童が比較的多い。

今後も、分かる喜びや考える楽しさが味わえるような授業の展開を工夫していきたい。

○「地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がある」「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある」「地域社会などでボランティア活動に参加したことがある」に肯定的回答をした児童の割合が、県や全国の平均を上回っている。

●家庭学習について「家で学校の宿題をしている」と回答した児童の割合74%に対して、「家で自分で計画を立てて勉強している」と回答した児童は18%、「家で学校の授業の予習・復習をしている」と回答した児童は20%である。

今後は、意欲や習熟の度合いに応じてさらに主体的に家庭学習に取り組む態度を育んでいけるよう、保護者の協力を得ながら、自主学習の仕方の指導をする。また、家庭学習強化週間の機会を捉え、計画的に学習する習慣を身に付ける指導に力を入れていく。

●「放課後に何をして過ごすことが多いか」という質問に「家で勉強や読書をしている」と回答した児童が64%に対し、「家でテレビやビデオ・DVDを見たり、ゲームをしたり、インターネットをしたりしている」という児童が78%、「友達と遊んでいる」という児童が76%いる。

この結果は県や全国の平均とあまり変わりはないが、平日の放課後の過ごし方については、児童と話し合ったり保護者会等で話題にしたりして、再考する機会を作れるようにしていきたい。

宇都宮市立田原西小学校（第6学年） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
・学びの楽しさを実感させる授業づくり	・単元や授業の導入を工夫したり、学び合いの必要性を感じさせるテーマや発問を工夫したりし、主体的に学ぼうとする意欲を高めている。	・「勉強は好きか」の肯定的回答は、算数が13.8%、理科が37.1%県を下回っている。
・家庭学習の推奨	・年度初めに、家庭学習メニュー表を配布し、自主学習ノートを活用させ使い方を具体的に指導している。また、自主学習ノートの秀作を掲示したり、年4回の家庭学習強化週間を実施したりし、家庭への啓発も図っている。昨年度からの取組により、個人や家庭による差が顕著になってきたため、個別支援を強化している。	・「予習・復習」への取組についての肯定的回答は、16.1%県を下回っている。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
記述式問題の正答率が、県を下回っている。 ・国語B：県より2%低い。 ・算数B：県より11.1%低い。 ・理科：県より11.6%低い。	全教科・領域で、事実や考え、感想等を記述する場を意図的に設け、習慣化を図ることで、書くことへの抵抗感を軽減する。	・国語科においては、作文添削や推敲の時間を大切に扱うとともに、読み合いや感想交流の場を意図的に設け、読み手を意識して分かりやすく記述しようとする態度を育てていく。 ・授業の振り返りの場を必ず設け、必要なキーワードや文字数などの条件下書くように指導する。 ・記述したノートやワークシートなどを教師がよく読み、添削や称賛を与え、児童の努力に丁寧に応える。 ・基礎・基本型だった朝の学習の内容を、文章読解や語彙、記述問題、活用問題などに変えていく。